

第2回 東海村地域公共交通会議 議事メモ(公表用)

【日 時】 平成 26 年 10 月2日(木) 15 時～

【場 所】 東海村役場 行政棟 205 会議室

【出席者】 (委 員) 出席 17 名／欠席 4 名

1. 開会(まちづくり推進課)

2. あいさつ

(会長)

- ・ 東海村民生委員・児童委員協議会の会長を務めております河野でございます。前回の会議で会長職を仰せつかりました。皆様方のご協力をいただきながらこの会を進めていきたい。
- ・ 東海村の高齢化の問題ですが、国や県から比べればまだそれ程は高くないのかなと感じておりますが、南台地区や緑ヶ丘地区については、高齢化率が非常に高い地区であり、買物難民等への対応も含めてこれからどうしていくのかということは常々懸念している。
- ・ 地域公共交通の面からも皆様と意見交換をして、そういったところの対応にもつなげていければと考えている。

(副村長)

- ・ 本日は茨城大学に実施していただいたアンケート調査の中間報告と村としての今後の進め方を皆様に説明したいと考えております。
- ・ 村としては、今回得られたニーズの点を線で結ぶようなイメージで新たな公共交通を創造したいと考えております。山田村長においても村政懇談会等の席上で、何らかの公共交通を走らせると回答しておりますので、ぜひ実現に向け皆様の活発なご意見をお願いいたします。

3. 協議事項

(1)「日常の外出についてのアンケート」素集計 中間報告(茨城大学)

- ・ 茨城大学から、下記資料に基づき、アンケートの中間報告について説明。

資料1 「日常の外出についてのアンケート」素集計 中間報告

資料1-①「日常の外出についてのアンケート」単純集計結果

＜質疑＞

(委員)

- ・ 非常に参考となるアンケート結果であるが、一つ感じたことは、買物の頻度については、このようなものかなというような数値なのだが、通院の頻度が思っていたより低いと感じた。月1回程度ということであると薬をもらいに行く程度なのか。

(茨城大学)

- ・ 年齢の項目を今回の報告に含めていなかったのだが、基本的には回答者の中に 50 代以下の方はほとんどいなかった。60 代と 70 代が同数程度といったような年齢構成である。本当に身体が弱いといった方の割合はそれ程高くなかったのだらうと感じる。ご質問の通院に関して、全く通院していないという

方が 42 人、12.2%なので、約8割の方は何らかの病院には通っていることになる。

(会長)

- ・ アンケート結果については概ね妥当であると感じているが、希望する運賃については、300 円程度が一番多いのかと思っていたが、500 円までという結果になっているので少し驚いた。
- ・ あいのりくんの総合的な評価で34%が“やや使いにくい”“改善が必要”と回答しているが、どういった面でそう感じているのか、結果が今回の報告では見えなかった。

(茨城大学)

- ・ 改めて集計をしてお示しする予定であるが、概ね 27 ページの結果に沿っており、一番目が予約の空き状況、二番目が乗車時間、所要時間、到着時間に対して“やや使いにくい”“改善が必要”と感じているようだ。その他の改善事項としては、村外に行けないという回答もあった。

(委員)

- ・ 21 ページの行きたくても行けない場所の集計について、海浜公園周辺が 85 人、28.2%であるが、この数値に近隣の商業施設への買い物ニーズはどの程度含まれているのか。

(茨城大学)

- ・ この設問は“海浜公園とその周辺の商業施設”というような表現にしており、次の具体的にどこに行きたいか聞いた設問への回答をみると、そのほとんどが商業施設であり、買物に関するニーズだということがわかる。

(副会長)

- ・ 以前デマンドタクシーの乗降場所の詳細を調べた際に、病院に行ってから隣の商業施設で買物をし、デマンドで帰るといったパターンや駅から隣の商業施設で買物をし、デマンドで帰るなどの複合的な利用が多くあった。海浜公園周辺に対するニーズもそういったものではないだろうか。

(茨城大学)

- ・ 今後はデマンドタクシーの利用状況と突合せも実施し、通院、買物の実態についてもう少し分析したいと考えている。

(2)今後のスケジュールについて

- ・ まちづくり推進課から、下記資料に基づき、今後の進め方について説明。
資料2 新たな公共交通を検討する上で重要となるポイント
資料2-①「日常の外出についてのアンケート」ニーズ反映シート
資料2-②～⑤ 公共交通の運行状況(JR、空港バス、高速バス、路線バス)
資料3 地域公共交通のあり方検討事業 今後のスケジュール

<質疑>

(副会長)

- ・ デマンドタクシーの現状については、概ね満足しているという結果が得られているが、デマンドタクシーでは村外に出られないので、公共交通との乗り継ぎを具体的に示して欲しいという声を良く聞く。この点についても検討項目に入れるべきではないか。

(まちづくり推進課)

- ・ デマンドタクシーは村内限定での運行許可を得ているので、村外へのニーズに対してどこで乗り継ぎさせるのが重要となる。例えば、ひたちなか海浜地区に行きたい方をどこで乗り継ぎさせるのかといっ

た時に、茨城東病院までデマンドタクシーで行って、そこで接続するバスに乗り換えるなどの方法が考えられる。

- ・ 片道 500 円なら支払ってもいいというアンケート結果から考えると、デマンド 300 円＋バス 200 円であれば、ニーズがつながるかもしれない。
- ・ 今回ニーズはつかめたので、今後はどのように線を引くかが重要となる。

(副会長)

- ・ 一番懸念していることは、全国的に路線バスは廃止されている傾向にあることである。

(まちづくり推進課)

- ・ デマンドタクシーでは行けない場所のニーズは、日立方面(おさかなセンターなど)、ひたちなか方面(海浜公園周辺、勝田駅周辺)に集中している。バスを走らせますとこれまでお話してきましたが、デマンドタクシーでカバーできている村内のニーズに対して、循環バスのようなイメージの路線を整備するのではなく、カバーできない村外へのニーズをどのようにつなぐかが今後の大きな課題である捉えている。

(委員)

- ・ 特に村外に出る部分に対して路線バスというお話しがでていたが、アンケートの結果を見ても、一番はデマンドタクシーで直接行けるのがいいのだけれども、二番目としては、バスで直接行けるのがいいというニーズがあるということがわかった。以前あった路線が廃止になってしまったことは残念なことなのだけれども、その時の状況と今の状況とでは変わってきている部分もあるので、一つの方策として、私どもの方で路線バスを村内あるいは村外に向けて走らせることを再度検討して、事務局や茨城大学と相談しながら、皆さんにお諮りし、その可能性を探っていきたいと思う。

(会長)

- ・ ぜひ検討してもらいたい。

(副会長)

- ・ 過疎地では、赤字補填を自治体が行っている事例もあるので、そういったことも踏まえて総合的に検討していただきたい。

(委員)

- ・ 新しい公共交通の詳細を検討し、決定する機関はこの会議ということになるのか。
- ・ 3月には運行を開始したいとしているが、スケジュール的に無理があるのではないか。

(まちづくり推進課)

- ・ 前回の会議でも説明したが、平成 26 年度予算として、茨城大学との調査・検討事業の結果を経て、3月には実証実験を行うとしたところである。検討の第二段階といったイメージでバスを走らせながらデータを取りたいと考えていた。ただし、議会でも説明しているが、時期的な問題にこだわりすぎ、結果として無駄な運行という形にならないように、スケジュール感については、必要とあらば次年度以降も継続させていく柔軟性を持っていきたいと考えている。
- ・ 当然来年度の予算にも関連するので、議会への説明も必要となるが、先ほど茨城交通から路線化を社内で検討させて欲しいとのご意見をいただいたので、その結果については当然この会議で報告し、皆様からのご意見を頂いて今後につなげていきたい。
- ・ 平成 26 年度予算は既に議会から承認をもらっており、実証実験として何らか走らせることについては問題がないとの判断を頂いている状況である。来年度予算については、引続き実証実験を継続していかなければならないと考えており、今後議会への確認も必要になってくる。デマンドタクシーの運行と今

回得られたニーズは住み分けができていますので、まずは茨城交通からお話しをいただいた民間事業者としてのバス路線の詳細(ルートやダイヤなど)を見せてもらってから、この会議に再度諮っていきたい。

(会長)

- ・ せっかく地域公共交通会議としてこの会議が立ち上がっているのです、ここで話し合った上で、ルートなどの最終決定をしてもらいたい。

(まちづくり推進課)

- ・ この会議で最終的な決定をしてもらうことになろうかと思うが、まずは実証実験として、走らせるという部分にはもっていきたいと思っている。茨城交通から提示されるルートや運賃などを見てから判断していきたい。

(委員)

- ・ 基本的な考え方の整理として、デマンドは村内運行というルールを変えないでいただきたい。東海村はコンパクトで、デマンドタクシーで、ある程度のニーズは満足されていると思う。次に村外への移動については、移動の自由という考え方はあるが、絶対に行かなければならない移動(通院や買物)とたまにしか行かないようなレジャー的な移動の二つがあることを意識してもらいたい。今後は村内でのデマンド運行を基本としつつ、いかにしてそれに接続させるのかということ考えた方がいい。
- ・ この会議のメンバーは全てを理解しているので最終的には理解を得られると思うが、住民に対しては、乗りたいではなく、乗りますといったようなアンケートをとる位でなくてはならない。自家用車と比較して、基本的に公共交通は不便な乗り物であると認識し、不便を分かち合って存続していくのが公共交通であるので、いかに住民のみなさんに協力してもらうかが重要である。
- ・ 東海村はコンパクトである上に、ちょうど真ん中にJRの駅がある理想的な地形であると思う。広すぎる市町村ではデマンド運行自体が成り立っていないところがたくさんある。

(会長)

- ・ 東海村は恵まれていると感じているが、そうはいつでも気になる点としては、南台地区や緑ヶ丘地区である。住民がどのように考えているのかは心配しているので意識して進めて欲しい。

(副会長)

- ・ 路線を維持できるだけの乗客を確保できるのかが重要になる。村としてもそう多くの赤字補填が出来るわけではない。どれだけの人が実際に乗るのかという調査を今後する必要があるだろう。

(会長)

- ・ 次回の会議開催日程について事務局から説明して欲しい。

(まちづくり推進課)

- ・ 当初はニーズ調査などを基に実証実験を行う計画で進めてきたが、先ほど茨城交通から路線バス化を検討していただけるというお話しをいただきましたので、まずは茨城交通からのルートや時刻、運行経費などの詳細を提示していただいた後、11月には再度会議を開催し、その情報を皆さんと共有したいと考えている。

(3)その他

(会長)

- ・ お手元に追加資料として、“平成26年度 買物環境に関するアンケート調査の実施について”が配布されているが、これについて、社会福祉協議会から説明をお願いします。

- ・ 東海村社会福祉協議会 事務局長から資料に基づき概要の説明

(委員)

- ・ 自宅の近くまで移動販売車などが来て欲しいなど、デマンドタクシーと比較してといった視点で課題が見えてくるといいのではないかな。

(委員)

- ・ 設問で工夫したいと思います。

(会長)

- ・ その他特になければ、これをもって協議事項を終了いたします。

6. 閉会(まちづくり推進課)

- ・ ご協議ありがとうございました。
- ・ 次回開催時期については、改めてご案内いたしますが、11月上旬～中旬を予定しております。